

高精細画像から見えてくるもの —重要文化財『杉田玄白肖像』に描かれた本—

表紙は当館所蔵の重要文化財『杉田玄白肖像』である（文庫 8 A252、大槻玄沢関係資料）。杉田玄白（1733-1817）は、江戸中・後期の医学者・蘭学者であり、前野良沢、中川淳庵らと共に医学書『解体新書』を刊行した。

本画は石川大浪（1762-1817）筆による、80歳を迎えた玄白の肖像画で、『蘭学事始』に掲載した肖像の原画である。教科書やメディアで使われるため、玄白といえはこの姿が浮かぶ人も多いだろう。

表紙の画像3点は、本画を IIIF 事業の一環として文化財専用の高精細スキャナーで撮影した全体画像（左）と、玄白の脇にある本2冊を拡大し（右上）、さらに回転したもの（右下）である。なお IIIF 事業については、本号「早稲田大学図書館における貴重資料のデジタル化の取り組みについて ～これまで・現在・そしてこれから～」を参照されたい。

本画の寸法は 69.9 × 28.2 cm（本紙全体）である。高精細画像で見る玄白の表情は、拡大すればするほどリアルさが増すような迫力がある。

次に、玄白の脇に2冊重ねて置かれた本に着目した。2冊のうち1冊には人物らしきものが見られるが、原画や既撮の画像からは判別がつかない。しかし高精細スキャン画像を拡大したところ、2名の人物が見て取れた。この構図から玄白が読んでいた洋学書を調べたところ、構図が似ている図を掲載した本を探し当てることができた。

それは『Heelkundige Onderwyzingen（外科学教育）』であり、原題『Chirurgie（外科学）』のオランダ語訳本となる。玄白の愛読書で『解体新書』の翻訳時に参考にしたとされる。挿図は左上が著者 Laurens Heister（ヘイステル）、右

下が翻訳者 Hendrik Ulhoorn（ユールホールン）である。両図を比較したところ、他にも似ている描写があり、この本は、『Heelkundige Onderwyzingen』であると、ほぼ特定できたと考えている。

肖像画の本に描かれた色づかいや装丁の質感から、大浪は細部まで描いていることがわかる。

高精細スキャンを実施した際に「この本が何か分かるかもしれない」という話をしてしたが、さっそく成果が出たことは感慨深く、今後の IIIF 事業展開への一助となれば幸いである。

参考文献：

杉本つとむ編『図録蘭学事始』（早稲田大学出版部、1985年）。
古川明「ハイステル外科書蘭訳本の扉絵」（『日本医学史雑誌』第33巻 第2号、1987年）。



表紙右下写真 再掲



『Heelkundige Onderwyzingen』挿図
（国際日本文化研究センター所蔵）

山本 さざり（資料管理課）

〔目次〕

P2 高精細画像から見えてくるもの

—重要文化財『杉田玄白肖像』に描かれた本—

山本 さざり（資料管理課）

P3 早稲田大学図書館における貴重資料のデジタル化の取り組みについて ～これまで・現在・そしてこれから～

ティムソン ジョウナス（資料管理課）

山本 さざり（資料管理課）

P7 「早大生に贈る★一行展」開催報告

伊藤 岳（利用者支援課）

P10 〈新収資料紹介〉『五十番歌合』（十市遠忠五十番自歌合〈享禄某年冬〉）

御手洗 靖大（文学研究科博士後期課程）

P12 李氏朝鮮時代の書籍～早稲田大学図書館古典籍総合データベースから

リー・マージ・クリスティン（国際教養学部教授）

P15 〈新収資料紹介（電子）〉Daily Mail Historical Archive 1896-2016

楊 スヒョン（資料管理課）

P17 <早稲田の本棚から>藤子・F・不二雄大全集

ドラえもん 5巻

奥村 紘美（利用者支援課）

P18 謹告「早稲田の東亜貴重資料展」≪10月7日から開催！≫

高木 理久夫（資料管理課／展示委員会）

P19 ～図書館だより～

< Pulsus > 図書館と出版社

小川 渡（理工学図書館担当課長）

< ライブラリー・ウィークのご案内 >

< 図書館日誌 >